

「キビタキ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



この日は一日中雨が降っていたが、キビタキは何度も山荘の庭にやってきた。やはりこの剪定痕の枝がお気に入りようで、長い時は5分以上もじっとしていた。おかげで私は、何度もシャッターチャンスに恵まれた。しかし、三脚を用意していなかったため、あまり良い写りとは言えない写真だ。



ヤマガラほど人なつこくはないが、キビタキも比較的警戒心が薄い野鳥だ。私が仕事場の窓を開けて、至近距離からシャッターを切っても、とくに動じることなく、被写体よろしく、じっとしている。しかもキビタキの特徴がよくわかるポーズをとってくれるので、大変ありがたい。

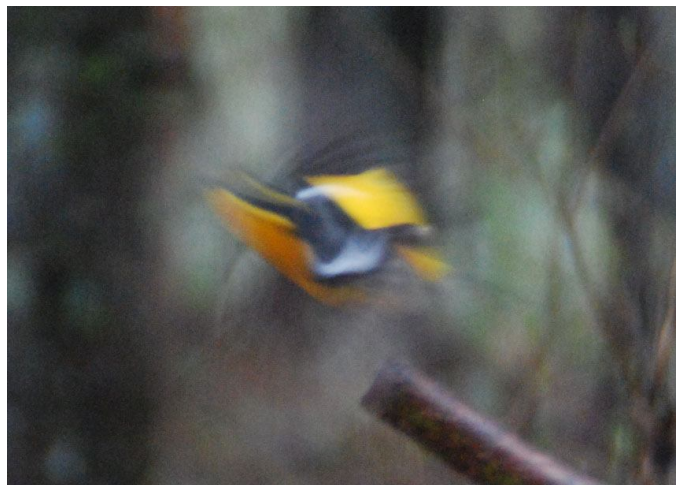
キビタキは胸羽が黄色いが、背中の中羽の隙間にも黄色い羽がある。左右の肩の下に、白いラインが一本ずつあるのも特徴だ。尾羽は比較的短く、長距離の渡りに適した形態をしている。



ずっと横を向いていたキビタキだが、「こっちを向いてね」とエスパーを送ると、ちゃんとカメラのほうを見てくれた。顔の羽色のコントラストが美しく、キリッとした表情に見える。



私は「飛び立つ一瞬」を撮影したくて、キビタキとずっとにらめっこをしていた。ちょっと大声を出せば飛び立つだろうが、驚いてもう来なくなってしまうので、10分以上待っていた。写真は、飛び立つ寸前の姿勢だ。



これが飛び立った一瞬。「キビタキです」といえば、そのように見えるが、これでは単なる「黄色い飛翔体」だ。もっと晴れた明るい日に、もう一度挑戦したい。